

プロジェクト事業の中間発表をする日本文理大の学生＝さいき城山桜ホール



佐伯の水産業活性化へ 文理大生が中間報告

【佐伯】学生自線で佐伯市の水産業の魅力や新しいビジネスモデルの可能性を探るプロジェクト事業の中間発表会が20日、市内大手町のさいき城山桜ホールであった。県内の産官学による組織「おおいた地域連携プラットフォーム」の実践型地域活動事業の一環。日本文理大の学生が7月から取り組んでいる。

学生やプロジェクト事業に協力する市内の水産業者ら約30人が出席した。学生は現地での聞き取りや学内アンケートなどに基づいた課題を提示。海産物の購入量を増やすため、魚をさばく動画を発信し、新たなレシピに取り組むことを提案した。会員制交流サイト（SNS）で多くのフォロワーを持つインフルエンサーとの連携なども呼び掛けた。

会場では、魚のさばき方教室や試食会もあった。プロジェクト事業は来年1月末まで。

(山本吉純)